

○台湾産キールンハタザオについて (井上賢治) Kenji INOUE: On the taxonomic status of *Arabis kelung-insularis* Hayata (Cruciferae)

キールンハタザオ (*Arabis kelung-insularis*) は Hayata (1913) により台湾の基隆島より報告されたものである。伊藤武夫 (1927) はハマハタザオ (*Arabis stelleri* var. *japonica*) に酷似していることを指摘しているが、具体的な比較は発表されていない。キールンハタザオと同じく海岸に生育するハマハタザオを多くの標本にもとづいて、分類上の標徴となる形質を比較すると、非常によく合致し、区別できないことが判った (表 1)。そこで、キールンハタザオは、分布域も広く変異性に富むハマハタザオの異名となる。同じく Hayata によって記載されたピトウハタザオ (*Arabis lithophila*) はすでに正宗 (1954) がキールンハタザオの異名としているが、これもハマハタザオの変異に含まれると考えられる。その結果、ハマハタザオは既知のアムール、樺太、朝鮮、日本から台湾に分布することが明らかになったが、台湾でのハマハタザオの分布は北部に限られているようである。琉球からは報告がないのは興味深い。

表 1. キールンハタザオとハマハタザオの比較

	キールンハタザオ	ハマハタザオ
茎	高さ 20~30 cm, 白毛と叉状毛をもつ	高さ 20~40 cm, 白毛と叉状毛をもつ
根出葉	長さ 6~11 cm, 幅 2.5~4 cm, さじ形	長さ 3~9 cm, 幅 2.5~4 cm, さじ形
茎葉	長楕円形~卵状長楕円形, 基部は茎をだく	左に同じ
花卉	白, 狭倒卵形, 長さ 4~7 mm, 幅 2 mm	白, 狭倒卵形, 長さ 5~9 mm, 幅 2~2.5 mm
花柱	長さ 0.5 mm	左に同じ
がく	長さ 3 mm, 幅 1~1.5 mm	長さ 3 mm, 幅 1 mm
種子	1~1.5 mm, 有翼	左に同じ
果実	長さ 2.5~5.5 cm, 花軸に平行し東状となる, 中肋は明らかでない	長さ 4~6 cm, 花軸に平行し東状となる, 中肋は明らかでない

最後に、標本の利用を許された東京大学 (TI), 京都大学 (KYO), 国立科学博物館 (TNS) の関係者に謝意を表します。また、御指導いただいた東京大学総合研究資料館の大場秀章先生にお礼申し上げます。

Arabis Stelleri DC. var. *japonica* (A. Gray) Fr. Schmidt in Mém. Acad. Sci. St.-Pétersb. ser. 7, 12(2) : 111 (1868)—Ohwi, Fl. Jap., Rev. Ed. 679 (1978).

Arabis kelung-insularis Hayata, Icon. Pl. Formos. 3: 18 (1913)—S. Sasaki,

List Pl. Formos. 199 (1928)—Kudo et Masamune in Ann. Rep. Bot. Gard. Taihoku Imp. Univ. 2: 107 (1932)—Masamune, List Vasc. Pl. Taiwan 56 (1954)—Hsieh et Yang, Nomencl. Pl. Taiwan 480 (1969)—Liu et Ying, in Li et al., Flora of Taiwan 2: 676, pl. 445 (1976), syn. nov.

Arabis lithophila Hayata, Icon. Pl. Formos. 3: 18 (1913)—Takeo Ito, Taiwan-shokubutsu-zusetsu 967 (1927)—S. Sasaki, List Pl. Formos. 200 (1928)—Kudo et Masamune in Ann. Rep. Bot. Gard. Taihoku Imp. Univ. 2: 107 (1932).

Specimens examined. Taiwan. Isl. Keelung (S. Sasaki, May 8, 1910, TI—holotype of *A. kelung-insularis* Hayata), Fukweichiao (S. Sasaki, Apr. 29, 1910, TI—holotype of *A. lithophila* Hayata), Shihmen (S. Sasaki, May 29, 1932, TNS; S. Sasaki, Mar. 25, 1924, TNS; K. Kimura, May 29, 1932, KYO).

Distr. Amur, Sakhalin, Japan, Korea, and Taiwan.

(東京農業大学 図書館標本部)

○四川省産イカリソウの 1 種 (原 寛) Hiroshi HARA: *Epimedium acuminatum* Franch. from Mt. Omei, China

昨年 5 月 3 日四川省峨眉山中腹で採ったイカリソウの一種が今春 4 月東京で開花した (Pl. XV)。四本の内曲した距をひろげた花形はイカリソウに似ているが、よく見ると随分違っている。距をつけた花弁は全く弁身部を欠き、中空の角状になった距だけなので、その基はぼっかりと大きく口を開けている。したがって中央に立っている蕊が裸出して目立つ。花茎には対生した 2 茎葉をつけている。Stearn (1938) のモノグラフでは、花弁が大形で距だけになった仲間は Sect. *Phyllocaulon* Subsect. *Diphyllon* Ser. *Dolichocerae* Subser. B に入れられており、近縁の 4 種は皆中国西部・中部に分布している。*Epimedium acuminatum* Franch. については峨眉山産の標本も引用されているが、この種の花色は採集者によって異なった記録が引用されている。私が現地で見ただけの花と、東京で咲いた花では、内萼片は白色、角状の距は基部がえび茶色をおびた濃紫色で萼との対象が美しく、距の先の方へ向かって色は淡くなり白っぽくなる。全株ほとんど無毛であるが、成葉になると下面は微細な乳頭状突起でおおわれ粉白となり、ごく短いやや太い伏毛がでてくる。中国には面白い植物が沢山あるのだということを痛感させられた。

Explanation of the plate XV

Epimedium acuminatum Franch. collected on Mt. Omei, Prov. Sichuan, and cultivated and flowered in Tokyo in April 1982.

(東京大学 総合研究資料館植物部門)